

再生

人間は真に覚悟を決めたら、そこから新しい智慧
が湧いて、八方塞がりと思ったところから一道の血
路が開けてくるものです。

森信三先生一語千鈞より



人生二度
なし

不尽

父親 人間学 入門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第90回 7月6日(土)
場所：仁風庵

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。
(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

六 読書と求道

―父として・人間として―

人生を生きる原動力 さて、読書という営みは、このわれわれの人生において、一体いかなる位置と比重を占めるものでありましょうか。すなわち、人生における読書の意義と価値について先ず考えてみたいと思います。それに先立って、読書とは一体何なのかということですが、客観的に申しますと書物ということのは、結局この無限に複雑多彩な人生ならびに現実界の反映であり、その縮図であるといえましょう。随つて書物を読むということは、そうした無限に複雑な人生ならびに現実界の一端について知る上での最適な一便法といえましょう。

もともとこれは読書の意義について、いわば巨視的大観の立場にたつて申したままであります、主観的にはどういふ価値があるかと申しますと、(一)われわれ自身がこの二度とない人生をいかに生きるかという、人間の生き方を学べるということ。(二)自己の職業に関する専門意識を吸収できるということ。(三)真の意味における広く豊かな教養を身につけ得るのではないのでしょうか。そしてこれがまた、われわれにとって必要な読書の三大部門と申せましょう。ですから、これらの三大部門については、たとえそのうち一つの部門だけでも、読まないよりはむしろといえましようが、しかし理想としては、請い願わくばこれら読書の段大部門が、ほどよき調和を保つということこそ望ましい読書態度と言うべきでしょう。ところが一般的に申して、この三大部門のうち、何としても中心的基盤というべき読書は、そこに自分の人生の生き方を見出し、人生を力強く生きる原動力をも、汲み出しうるようなものでなくてはならぬと思います。世の中にはいわゆる読書好きという人があつて、読書を以つていわば一種の娯楽ないしは時間つぶしというよ

うな興味本位の読書家も、多くの人の中にはいるわけであります。しかしそういう人でさえ、読書によつてこの人生の深い味わいが、しみじみと味わえるような読書にいたらねば、真の読書とはいひがたいと思うのであります。したがつてまた真の良書とは、人生の理法を明らかにし、人生を生き抜く真の原動力を与えるものでなくてはならぬわけであります。

良書の選択 ところでこの「良書の選択」ということですが、これがまたよいならぬことなのであります。わたくしの考えでは、このように「書物の選択」さえ誤らなければ、読書も意外にラクなものともいえ、少なくとも人に読もうという心がけさえあれば、読書という事柄は、ほとんど他に問題はないと言つてもよいかと思つてあります。わたくしから申せば、読書法などと言っても、結局は書物の選択を誤らぬということが根本の第一義であつて、これさえ誤らなければ、読書の問題の八・九割までは、片づくと言つてもよいかと思われまふ。

そこで問題は、ではどうしたら「書物の選択」が巧みになるかという問題ですが、これは結局読者自身が、良書を鑑別する鑑識眼というか、真の眼力を養う他なといえましよう。しかしこれはまた、生涯にわたる人生修業の一つでもあつて、本来至難なわざであります。と申しますのも、書物の鑑識眼を身につけるといふことは、その人自身が人生ならびに現実に対してある程度の洞察力を身につけなければ、実は出来ないことだと言つてよいからであります。

尤もこのような最終的な理想を申しますと、かえつてますます読書嫌悪症にかかる結果になりかねないでしょうが、真の真相を申したにすぎません。そこで大事なことは、身近かに適当な指導者があつて、良書の選択や紹介をして貰えま

すと、まことに有難いわけでありませう。わたくしも、過去三十有余年にわたり一人雑誌(初めは「開頭」、いまは「実践人」)の刊行をつづけて来たわけですが、その紙面には必ず「佳書紹介」欄を設け、また講演の機会毎に一貫してこの読書指導の方針を貫いてきたわけでありませう。

求道入門 さて、読書についてわたくしの常に申しておりますことは「読書は人間の心の養分」というわけで、肉体を養うために毎日の食事が欠かせないよう、心を豊かに養う滋養分としての読書は、われわれにとつて欠くことの出来ないものであります。ですから人間も読書をしなくなったら、いつしか心の栄養不足を来たすと見て差しかえなないでしょう。同時にまたその反面、滋養の摂り過ぎにも問題があるわけですが、こういう人も所謂読書家といわれる人々の中にもあるわけで、これは真実の実践的エネルギーにつながらない読書だからであります。「論語読みの論語知らず」というコトバがありますが、そうした種類の読書人に対する痛烈な批判でありまして、日常の実践に昇華しない読書家にとつて、これほど内省すべきコトバはないとも言えませう。しかし一方から申しますと、真に実践につながらないとは、その人自身が真の自覚に達していないとも言えるわけで、それは言いかえると、真の読書に透徹していないからともいえませう。

読書態度の確立 物事はすべて一長一短でありまして、このように読書についても短所の一面がないわけではありません。いやしくも道を求め、道を歩まんとする求道の士にとつては、読書は欠くことの出来ない求道の門であり、同時にまた奥の院であるとも申せませう。ところが今日「求道」というコトバさえ、縁遠いコトバになりつつあるとも言えませうが、しかし真の「求道」とは、この世に「生」を享けて——二度とないこの人生を如何に生きるか——という人生の根本問題と取り組み、つねに真剣に自らを緊きしめ歩もうとする人生態度と言つてよからうと思ひます。

ですからわたくしの読書論は、先ほど申したように、何を讀むかという「書物

の選択」と共に「いかに讀むか」という読書の態度がつねに問題になるわけでありませう。と申しますのも読書は、テレビを観るにくらべて、いかに内的緊張を要するか、改めて申すまでもない事でありませう。ですから、毎日一定の時間を読書に打ち込むという事は、いかほどの自己規制と自己克服を要するかを考えませう。と、求道としての読書の意義についてもお分かり頂けるかと思ひます。

わたくしは「一日不作一日不食」という禅門のコトバにならつて「一日不讀一日不喰」というわけで、何らかの支障によつて、読書の最低基準がなされなかつた日は、次の食事を一食抜くくらいの覚悟が望ましいと思つたのでありまして、このようになりますと、読書の入門が、そのまま、ある意味では、道への入門であるという意味もおわかり頂けるかと思ひます。

時を守り
場を清め
礼を正す
不尽

第四章 明日のためにできること

微を見て以てして明を知る

文明の進歩で失われたもの

人は皆、価値ある仕事を求め続けてきました。絶えずいまよりも価値が高く、意義ある仕事を目指してきたことによって、過酷な労働から逃れることが可能になり、少ない労働で質の高いものをたくさん生み出せるようになりました。

特にこの半世紀の間には、質、量ともに予想をはるかに超える向上を果たしました。私も大いにその恩恵を受けている一人です。

かつては東京から大阪まで十時間以上もかかり、しかも混雑する車内ではなかなか席に腰かけることもできず、立ち通しで往復したものでした。地を這うようにして生きてきた私にとっては、普段から「このよう」とは当たり前のごとくでしたので、遠いところへも腰をかけて短時間で往復できるようになったのは、実に快適でありがたいことばかりです。

しかし、文明の急速な発達によって失われたものも少なくありません。機械文明の発展過程を知らない世代から、すべてのものがあって当たり前、少しでも欠ければ耐えられないからという風潮が芽生え、人々の穏やかな心と暮らしが損なわれてきました。忍耐力を失った人はすべての恩恵を受け尽くし、使い切ってもまだ足りず、絶えず不満を募らせていきます。



文豪幸田露伴が遺した三福説

「惜福・分福・植福」

とは、およそ正反対の生き方となりました。

微を見て以てして明を知る

かつては、自分のことより子孫のこと、いまのことより未来のことを大切にしてきた日本民族が、子孫のことより今の自分、未来の安心よりいまの快適さを求めるようになりました。この風潮が高じた結果、国益より自分の住む地域益が優先されるようになりました。

国益を第一目的として行われるはずの市町村合併は、地域益が最重要条件になり、百年の大計が成り立たないのは周知の事実です。官庁でも国益よりも省益や組織益が優先され、それを主張し守ることを仕事としている人も少なくありません。

この傾向はますます強くなり、地域益より一家族の益、さらに家族の中にあつてさえ一人の益のほうが優先される傾向が強くなりました。

人々の求める益の範囲が狭くなり、将来よりいまというように時間が短くなるにつれて考え方が利他的になり、社会が乱れていくのは、当然の成り行きでありましょう。

自分の快だけを求める人は、周囲の人を幸せにすることはできず、家族さえ守ることができません。また、目先の快のみを求める人が将来幸せでありたいと願っても、それは儂い望みでありましょう。

日本はいま、金銭で量れる経済上の物差しだけをもって、よくなっているといわれていますが、それはただ一面から観測したに過ぎず、総合的な見地からすれば、よくなっているとは到底いえません。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 368 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 **ハウスマイト**



第368回 博多駅早朝清掃

女子高生が進行役に!!

7月8日(月曜日)

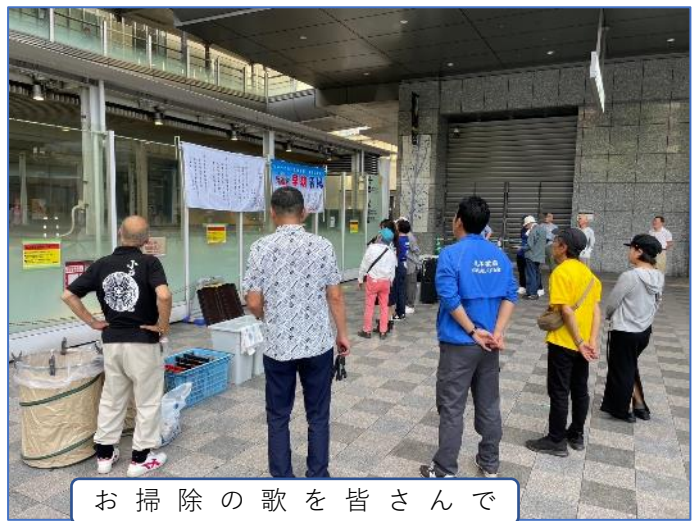
51名参加



第368回、今回は大阪の道友Mさんが駆けつけてくださいました。博多駅早朝清掃の醍醐味は単に掃除をするだけではなく出逢いを深めるという場所に相応しいのかもしれない。人の集まる空間、最高！ けさえもん 拝



鍵山掃除道歌の作曲者Mさん



お掃除の歌を皆さんで



7月の博多は山笠一色

2024/07/08



大阪からの道友Mさん



お掃除痕の感想発表

2024/07/08

～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

=== 心を耕し、生を拓く ===



今回集めたゴミの総数
不燃物：赤 45Lx130
可燃物：透明45x30

2024/07/14



後援



令和6年7月11日、甑島里港へ同志道友が上陸しました。来島の目的は、長目の浜の海岸清掃その一点だけの為に。

梅雨末期の悪天候でフェリーニューこしきは大揺れだったようです。道友の中には船酔いで気分が悪くなり、船を下りたとたんに座り込む人も数人いました。

とんぼろ掃除に学ぶ会は昨年2月に発足、甑島を代表する景勝地『長目の浜』の海岸清掃を続けています。発足後は毎回島外から参加者もあり島民と一緒に活動をしてきました。長目の浜は全長約4,000m展望所から見る眺望は素晴らしいの一言に尽きます。

薩摩藩主島津久光公は、その景観の美しさから『眺めの浜』と命名したと記録に残っています。平成28年には、国定公園に指定され観光客の誘致を薩摩川内市は進め、環境客は増えてきています。が、ただ展望所から見る遠目には美しい海岸線も、一旦その海岸へ降りてみると、様子は一変します。海岸線に流れ着いた漂着ごみは、目を覆いたくなるような光景です。

とんぼろ海掃隊は、毎月定期的にこの海岸のゴミ拾いを続けていますが、ゴミの数が減る実感を感じることはありません。これまでに漂着したゴミは、すでに海岸の石や砂に埋もれてしまい、引き出すこともできない状況下にあります。

今回、このごみの実態を島外から訪れた同志道友に見てもらい実際手にして今後の対策の一助となればとこの企画をしました。

・・・とんぼろ掃除に学ぶ会トンボロ海掃隊の第一回年次大会の幕開けです。・・・

長目の浜の中心部「貝池の駐車場」を拠点に左右に範囲を決めてごみ拾い活動を計画しました。しかし、本番の14日早朝は、前夜からの大雨で雷を伴い午前4時の時点で、中止も過った方がありました。しかし、奇跡は起きました。

開始時刻の6時には、見事に雨は小康状態になりました。ただ、貝池駐車場へ行ってみると、海岸への道路は60センチ以上水没していました。私も30年以上この地を訪れていますが、初めて見る光景でした。

急遽、活動場所を田之尻展望所下の海岸に変更し移動することとしました。

それからは、通常通りの年次大会の次第に沿って進行できました。

開会式、体操、注意事項、リーダーの紹介の後、いざ海岸へと降りて行きました。

その海岸線へ広がるゴミ、ゴミ、ゴミと言ったら言葉を失う同志道友が多々いたと思います。折り重なるように積み重なった漂着ごみの数は想像を絶するものだったかと思えます。これまで、再生の紙面で紹介してきたものを目の当たりにしてみると絶望が先に立ったかと思えます。

その、活動内容を写真で紹介したいと思えます。

世話人：袈裟右衛門 拝



水没した海岸への道路



水没した道路を背景に記念写真



田之尻展望所で開会式



島民の方を紹介



準備体操



海岸へ降りて呆然とする参加者たち



漂着ごみに苦戦する同志道友





バケツリレー方式でゴミ袋運搬



閉会式での感想発表

2024/07/14



木南さんより総評

とんぼろ掃除に学ぶ会、トンボロ海掃隊第1回年次大会を盛大に行うことが出来ました。島外から37名の参加者を迎え長目の浜の海岸清掃ができたことは、今後の活動に大きな意味をもちます。まずはゴミの現状を知ってもらえたこと。参加していただいた方、ゴミ処理にご協力いただいた行政の方ありがとうございました。

福岡・福岡市知事藤原行門
春の訪れは掃除の日

開花期は
七月の頃。美しい花の
世界が広がります。
かきくまのこころ



鹿児島県薩摩川内市
「鹿の子やりの
美しき魁」

	8月					9月					10月				
日	2	4	8	17	25	1	7	8	14	20	28	5	6	8	12
曜	金	日	木	土	日	日	土	日	土	金	土	土	日	火	土
行事活動名	福岡空港ミリオン清掃75回	戒壇院早朝作務 第14回	博多駅早朝清掃 第369回	長目の浜海岸清掃 第19回	尼崎不尽掃除に学ぶ会	戒壇院早朝作務 第15回	福岡空港ミリオン清掃76回	博多駅早朝清掃 第370回	長目の浜海岸清掃 第20回	東京・お掃除・楽農交流	筑豊掃除に学ぶ会2000回記念	福岡空港ミリオン清掃77回	戒壇院早朝作務 第16回	博多駅早朝清掃 第371回	長目の浜海岸清掃 第21回
場所	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	兵庫県尼崎市	太宰府市戒壇院境内	福岡空港周辺	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	東京近郊	のがみ プレジデントホテル	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市
開始時刻		6時30分	6時15分	6時30分	6時	6時30分		6時15分	6時30分	20日・22日	15時		6時30分	6時15分	6時30分
運営団体	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃除隊	実践人の家	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃除隊	NPO法人楽農人	筑豊掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃除隊

上記行事予定表は、富吉の参加する予定を掲載させていただいています。その他、活動しているお掃除実践もごございますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人)富吉 製装右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ海掃除隊

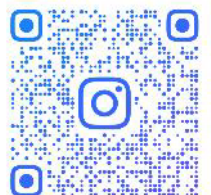
〈合同事務局〉〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F_JISSENJIN

